

現代日本経済史講義

第5回

1-3 都市化と不均衡成長、産業の組織化

2004年冬学期

武田晴人

＊:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

3 都市化と不均衡成長、産業の組織化

- 1919.8 戦後ブーム開始
- 1920.1 國際連盟発足
- .3 1920年恐慌
- .10 第1回国勢調査
- 1921.6 三菱・川崎争議
- .11 原敬首相暗殺
- 1922.2 ワシントン軍縮条約
- 1923.9 関東大震災
- 日銀震災手形損出補償法
- 1924.1 第二次護憲運動
- 1925.3 男子普通選挙
- .4 治安維持法
- 1927.3 金融恐慌
- 銀行法公布
- 1929.10 ニューヨーク株大暴落

関東大震災

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
「あふれる避難者」
の写真を省略させていただきます。

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
「上野広小路付近の火災」
の写真を省略させていただきます。

138 あふれる避難者 火災に追われた人々は、空き地や公園に難を逃れた。写真は、午後3時の上野公園入り口。上野公園は50万人の被災者であふれたという。

138 上野広小路付近の火災 木造の家屋は、あまりにも容易に倒壊し類焼した。このことは震災後の都市計画に、早急に解決さるべき課題として残されることになる。

武田晴人「帝国主義と民本主義」p.171～173より

Haruhito Takeda

関東大震災

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
「鎌倉の震災」
の写真を省略させていただきます。

137 鎌倉の震災 鎌倉は、地震と火災に加えて津波に襲われた。市街は全滅、死者は500人に達した。写真は、倒壊した鶴岡八幡宮。

武田晴人「帝国主義と民本主義」p.171～173より

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
「地震直後の日比谷交差点」
の写真を省略させていただきます。

136 地震直後の日比谷交差点 有楽町付近からは、早くも火の手が上がっている。地震の発生は12時直前、昼食の準備の時間だった。煮炊きの火は、建物を焼きつくす炎と変じて被害を大きくした。

都市化と住宅開発

現代日本經濟史2004

戦前の東京における 沿線住宅地開発



1

| | | | |
|------------|--------------|---------|---------|
| 東急沿線 | 21 尾山台 | 京王沿線 | 51 中山 |
| 1 洗足 | 22 等々力 | 37 鳥山 | 52 海神台 |
| 2 大岡山 | 23 上野毛 | 西武沿線 | 53 谷津 |
| 3 田園調布 | 24 久ヶ原 | 38 長者園 | 54 檜見川 |
| 4 奥沢 | 25 鶴の木 | 東武沿線 | 55 稲毛 |
| 5 新丸子 | 26 蒲田 | 39 常盤台 | 56 千葉海岸 |
| 6 元住吉 | 27 代々木上原徳川邸跡 | 京急沿線 | |
| 7 日吉 | | 40 八丁畷 | |
| 8 綱島 | | 41 生麦 | 土地会社 |
| 9 大倉山 | | 42 久里浜 | A 桜新町 |
| 10 菊名 | 28 八丁畷 | 43 堀切 | B 成城学園 |
| 11 新神奈川 | 29 生麦 | 京成沿線 | C 玉川学園 |
| 12 青木町 | 30 久里浜 | 44 お花茶屋 | D 国立 |
| 13 中目黒 | | 45 青砥 | E 小平 |
| 14 目黒三田台 | 小田急沿線 | 46 柴又 | F 東村山 |
| 15 祐天寺 | 31 中央林間 | 47 小岩 | G 大泉学園 |
| 16 目黒区役所前 | 32 南林間 | 48 江戸川 | H 目白文化村 |
| 17 府立高等付近 | 33 生田 | 49 市川 | |
| 18 府立園芸学校前 | 34 狛江 | 50 八幡 | |
| 19 自由が丘 | 35 喜多見 | | |
| 20 雪ヶ谷 | 36 祖師谷大蔵 | | |

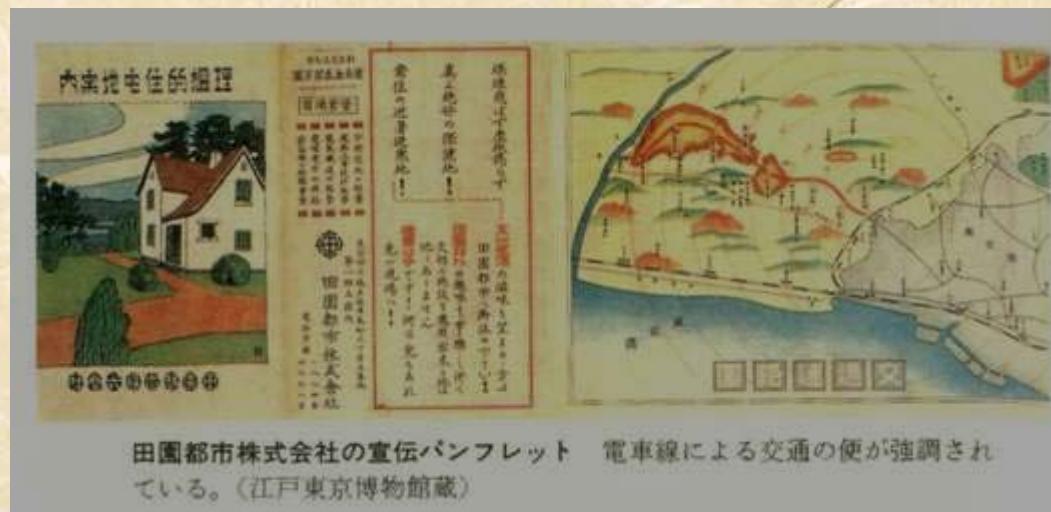
土地公社
 [A] 桜新町
 [B] 成城学園
 [C] 玉川学園
 [D] 国立
 [E] 小平
 [F] 東村山
 [G] 大泉学園
 [H] 白羽文化村

田園調布の開発

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
「田園調布」
の写真を省略させていただきます。

154 田園調布 上は田園調布の鳥瞰、下はレッチウォースの区画図である。同じように、環状道路と放射状道路とによって、街区が形成されている。

武田晴人「帝国主義と民本主義」p.188 より



著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
「中廊下型住宅」
の写真を省略させていただきます。



153 目白文化村の土地分譲広告 堤康次郎率いる箱根土地(現国土計画)が、東京で住宅地の開発を手がけはじめたのは1922年。その最初の一つが目白文化村だった。『時事新報』1923年5月12日より。

文化住宅と宅地分譲

武田晴人「帝国主義と民本主義」P.187、P.190より Haruhito Takeda



156 百軒店の広告 箱根土地は、関東大震災を機に、分譲予定を住宅地から商店街に変更した。中央に聚楽座という劇場を造り、周囲に117軒の洋風2階建ての店舗を配置して百軒店と名付けた。だが、下町の復興の進展にともなって、有名店は次々に引き上げた。一時はさびれたこの町が繁華街になるのは、満州事変以降のことである。

文化住宅と同潤会アパート



161 西片町の文化住宅 江戸時代、西片町は福山藩主の阿部家の江戸屋敷だった。近代に入っては、文教地区となりつつあった本郷付近にあって「学士町」などと呼ばれた。

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
「同潤会アパートの生活」
の写真を省略させていただきます。

同潤会アパートの生活 机の前に卓袱台を置く。手前のコンロでトーストを作り、バターを塗って食べる。飲み物は紅茶である。和洋混在の生活は、アパートの部屋にはふさわしかった。写真は、同潤会青山アパートメント（1927年までに全棟完成）とその居住者。



家電製品の時代の幕開け

武田晴人「帝国主義と民本主義」p.166、p.167より

Haruhito Takeda

著作権処理の都合で、この場所に挿入されていた
風刺画「過ぎし日のクライマックス」
の図版を省略させていただきます。

金融恐慌の発生 1927年

再建金本位制下の世界

- 第一次世界大戦後の世界は、ドイツ賠償問題の未解決と、これに基づく国際通貨体制の再建の遅れによって不安定な状態を続けていた。
- ドイツに課せられた多額の賠償は、ドーズ案に基づくアメリカの対ドイツ援助＝資本輸出によって、解決の糸口を見いだすが、それは、ヨーロッパの再建が短期的にはアメリカの資金散布によって、長期的にはドイツの貿易黒字によって本質的には解決されることを意味した。
- そのため、ドーズ案の成立によってようやく金本位制再建の道を見いだしたヨーロッパは1920年代半ばには、相対的な安定を実現するが、その「安定」は、ドイツを軸とする激しい国際競争の展開によって脅かされていった。

不均衡な世界経済

1920年代に大戦期に急成長したアメリカ経済は、「黄金の10年」を経験した。

T型フォードに代表される耐久消費財の普及を基礎に大衆消費社会的な状況を生み出したからであった。

しかし、他方で敗戦国ドイツだけでなく、欧州諸国は経済的な困難に直面していた。

社会主義の脅威と、途上国の経済発展がそれぞれの国の経済運営を困難にしていたからであった。

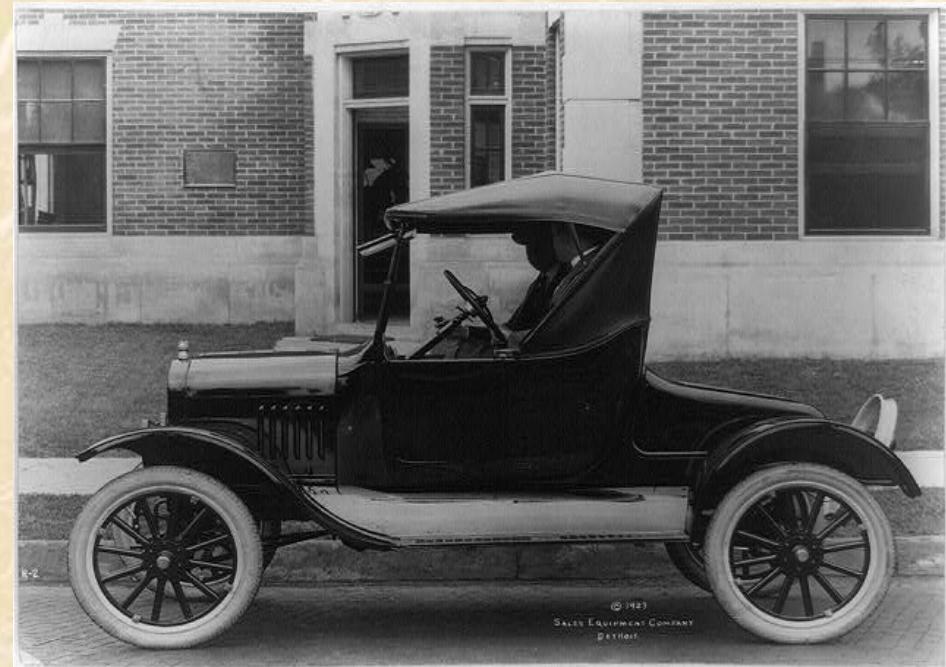


写真: ウィキペディアより

この画像およびファイルは、著作権の保護期間が満了しているため

[パブリックドメイン](#)で提供されています。

Haruhito Takeda

総力戦の教訓

● 第一次世界大戦による総力戦の教訓

先進各国は

- ① 戦時に対応できる自給的経済構造形成の必要
- ② 社会主義革命の脅威の下での国内宥和政策の展開の必要

→ 農業保護政策の強化

失業問題を激化させる恐慌の回避

すなわち、「宥和政策の展開」を不可避とした。

● 結果的に、先進国が国内の問題を優先し、対外的な協調の余地を小さくする。

● また、先進国の農業保護政策の展開は、カナダ、アルゼンチン、オーストラリアなど農産物輸出国の国際収支を圧迫し、農産物価格の低迷による「世界農業問題」を引き起こす。

1-3-2 厳しい国際競争圧力と貿易構造

- このような条件は、日本の国際環境から見ると、世界市場での激しい国際競争が展開し、日本の輸出貿易を制約するとともに、日本への強い輸入圧力となつた。
- 世界の貿易単価指数は、20年代には低迷するなか低落傾向にあり、各国の物価水準が、アメリカやイギリスで第一次大戦前の水準の150%程度であったのに対して、貿易単価は、125～130%と明らかに低かった。そのため、貿易財では価格が低迷したが、その点は、以下のような主要輸入品の単価の下落に表現されていた。

表 輸入品価格の下落

円／ピクル

現代日本経済史2004

| | 鋼製品 | 銑鉄 | 小麦 | 砂糖 | 粗硫安 |
|------|-------|------|------|-------|-------|
| 1913 | 4.48 | 2.35 | 4.39 | 6.90 | 8.61 |
| 1920 | 12.22 | 6.98 | 9.94 | 20.38 | 16.55 |
| 1921 | 11.32 | 4.85 | 6.41 | 13.96 | 8.34 |
| 1922 | 6.14 | 3.25 | 6.57 | 10.00 | 8.22 |
| 1923 | 5.96 | 3.03 | 6.43 | 10.82 | 10.28 |
| 1924 | 6.06 | 3.13 | 6.32 | 12.58 | 9.46 |
| 1925 | 6.19 | 3.16 | 9.13 | 11.82 | 9.78 |
| 1926 | 4.77 | 2.64 | 7.97 | 11.06 | 9.11 |
| 1927 | 4.66 | 2.66 | 6.94 | 10.80 | 7.86 |
| 1928 | 5.33 | 2.61 | 6.19 | 10.23 | 7.65 |
| 1929 | 5.55 | 2.34 | 5.80 | 8.21 | 7.58 |
| 1930 | 5.61 | 1.69 | 5.15 | 6.37 | 5.87 |

•ダンピング的な輸入圧力の展開

貿易の地域別品目別構成

—1929年—

現代日本経済史2004
100万円、

| 先進地域 | 輸入 | | | 輸出 | | |
|---------|---------------|---|-----------------------------------|---------------------------|---|-------------------------|
| | 食料品 | 原料品 | 工業品 | 食料品 | 繊維品 | その他製品 |
| イギリス | | | 鉄類 23 硫安 17 機械 34 毛織物 15 | | 絹・人絹 10 | |
| 大陸ヨーロッパ | | | 鉄類 47 硫安 23 機械 31 毛織物 15 | | 生糸 13 絹人絹織物 12 | |
| 北アメリカ | 小麦 50 | 綿花 276 石油 17 木材 72 | 機械 42 鉄類 37 自動車 32 鉛 12 | ビン・カンヅメ 11 | 生糸 761 絹人絹織物 24 | 陶磁器 16 |
| 後進地域 | | | | | | |
| 中国 | 豆類 75 | 採油原料 26 油粕 73 石炭 34 鉱石 11 綿花 34 | | 小麦粉 25 精糖 27 水産品 11 | 綿織物 165 | 紙類 20 石炭 12 機械 11 |
| その他アジア | 米 18 砂糖 30 | 生ゴム 33 鉱石 12 石油 17 綿花 231 木材 13 | 鉄類 16 | | 絹人綿織物 48 メリヤス 17 綿糸 17 綿織物 190 | 石炭 10 |
| その他 | 小麦 15 | 綿花 22 羊毛 99 | | | 綿織物他 68 | Haruhito Takeda |

品目別貿易収支の推移

現代日本経済史2004

| | | 1910-14 | 1915-19 | 1920-24 | 1925-29 | 1930-34 |
|-------|----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 合計 | 輸出 | 2,656 | 7,500 | 8,094 | 10,463 | 8,060 |
| | 輸入 | 2,922 | 6,166 | 10,276 | 11,542 | 8,413 |
| | 収支 | -266 | 1,334 | -2,182 | -1,079 | -353 |
| 食料品 | 輸出 | 284 | 717 | 531 | 763 | 665 |
| | 輸入 | 368 | 633 | 1,320 | 1,636 | 875 |
| | 収支 | -84 | 84 | -789 | -873 | -210 |
| 原料品 | 輸出 | 222 | 397 | 490 | 621 | 332 |
| | 輸入 | 1,445 | 3,285 | 5,009 | 6,426 | 4,947 |
| | 収支 | -1,223 | -2,888 | -4,519 | -5,805 | -4,615 |
| 原料用製品 | 輸出 | 1,337 | 3,253 | 3,635 | 4,598 | 2,543 |
| | 輸入 | 529 | 1,531 | 2,034 | 1,772 | 1,364 |
| | 収支 | 808 | 1,722 | 1,601 | 2,826 | 1,179 |
| 全製品 | 輸出 | 783 | 2,967 | 3,332 | 4,312 | 4,302 |
| | 輸入 | 561 | 671 | 1,835 | 1,634 | 1,156 |
| | 収支 | 222 | 2,296 | 1,497 | 2,678 | 3,146 |
| 雑品 | 輸出 | 30 | 166 | 106 | 169 | 218 |
| | 輸入 | 17 | 46 | 76 | 74 | 71 |
| | 収支 | 13 | 120 | 30 | 95 | 147 |

貿易構造の特徴

- 依然として、対先進国では途上国的な貿易構造を持続している。
- 輸出の中心は繊維製品

しかし、このような構造は、先進国からの厳しいダンピング攻勢による重工業の低迷という要因に依っている。

こうした対外競争圧力が、構造変化を制約する条件となつた。

品目別貿易収支の推移

現代日本経済史2004

| | | 1910-14 | 1915-19 | 1920-24 | 1925-29 | 1930-34 |
|-------|----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 合計 | 収支 | -266 | 1,334 | -2,182 | -1,079 | -353 |
| 食料品 | 輸出 | 284 | 717 | 531 | 763 | 665 |
| | 輸入 | 368 | 633 | 1,320 | 1,636 | 875 |
| | 収支 | -84 | 84 | -789 | -873 | -210 |
| 原料品 | 輸出 | 222 | 397 | 490 | 621 | 332 |
| | 輸入 | 1,445 | 3,285 | 5,009 | 6,426 | 4,947 |
| | 収支 | -1,223 | -2,888 | -4,519 | -5,805 | -4,615 |
| 原料用製品 | 輸出 | 1,337 | 3,253 | 3,635 | 4,598 | 2,543 |
| | 輸入 | 529 | 1,531 | 2,034 | 1,772 | 1,364 |
| | 収支 | 808 | 1,722 | 1,601 | 2,826 | 1,179 |
| 全製品 | 輸出 | 783 | 2,967 | 3,332 | 4,312 | 4,302 |
| | 輸入 | 561 | 671 | 1,835 | 1,634 | 1,156 |
| | 収支 | 222 | 2,296 | 1,497 | 2,678 | 3,146 |
| 雑品 | 輸出 | 30 | 166 | 106 | 169 | 218 |
| | 輸入 | 17 | 46 | 76 | 74 | 71 |
| | 収支 | 13 | 120 | 30 | 95 | 147 |

貿易構造の変化

● 1920年代前半と後半の差異

20年代前半は、

- ①食料品の赤字と原料品の赤字を製品輸出がカバーできなかつたが、20年代後半には、
 ②全体の赤字はほぼ食料品の赤字で説明され、工業生産に関わる原料の輸入と製品の輸出はバランスする傾向が顯著。

| | | 1910-14 | 1915-19 | 1920-24 | 1925-29 | 1930-34 |
|-------|----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 合計 | 収支 | -266 | 1,334 | -2,182 | -1,079 | -353 |
| 食料品 | 輸出 | 284 | 717 | 531 | 763 | 665 |
| | 輸入 | 368 | 633 | 1,320 | 1,636 | 875 |
| | 収支 | -84 | 84 | -789 | -873 | -210 |
| 原料品 | 輸出 | 222 | 397 | 490 | 621 | 332 |
| | 輸入 | 1,445 | 3,285 | 5,009 | 6,426 | 4,947 |
| | 収支 | -1,223 | -2,888 | -4,519 | -5,805 | -4,615 |
| 原料用製品 | 輸出 | 1,337 | 3,253 | 3,635 | 4,598 | 2,543 |
| | 輸入 | 529 | 1,531 | 2,034 | 1,772 | 1,364 |
| | 収支 | 808 | 1,722 | 1,601 | 2,826 | 1,179 |
| 全製品 | 輸出 | 783 | 2,967 | 3,332 | 4,312 | 4,302 |
| | 輸入 | 561 | 671 | 1,835 | 1,634 | 1,156 |
| | 収支 | 222 | 2,296 | 1,497 | 2,678 | 3,146 |
| 雑品 | 輸出 | 30 | 166 | 106 | 169 | 218 |
| | 輸入 | 17 | 46 | 76 | 74 | 71 |
| | 収支 | 13 | 120 | 30 | 95 | 147 |

物価の国際比較

現代日本経済史2004

激しいダンピングによる重工業品価格の低落にもかかわらず、物価水準は国際的に見ると割高であった。

その理由は国内の財政金融政策が拡張的だったから。

5・36 物価の国際比較

†

| | 日本 (1) | 日本 (2) | 日本 (3) | アメリカ (4) | イギリス (5) |
|---------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|
| 1911-13 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 1914 | 97.4 | 97.0 | 96.7 | 100.3 | 102.0 |
| 16 | 119.2 | 120.8 | 123.3 | 125.9 | 163.3 |
| 18 | 196.5 | 204.2 | 208.9 | 193.4 | 230.5 |
| 20 | 264.6 | 265.9 | 335.3 | 227.4 | 301.3 |
| 22 | 199.8 | 193.8 | 211.6 | 142.4 | 157.3 |
| 24 | 210.7 | 179.1 | 197.2 | 144.5 | 166.9 |
| 26 | 182.4 | 173.1 | 172.9 | 147.3 | 151.3 |
| 28 | 174.4 | 163.9 | 163.2 | 142.4 | 144.1 |
| 30 | 139.5 | 139.0 | 138.8 | 127.0 | 116.0 |

(1)は日銀調東京卸物価指数(1900年10月基準)より作成. (2)は(1)×対米為替相場指数(1911-13=100). (3)は(1)×対英為替相場指数(同). 為替相場は横浜正金銀行の平均相場. 『日本經濟統計集』p. 171, 252.

(4)は Bureau of Labor Statistics 卸売物価指数により作成. *Historical Statistics of the U.S.*, p. 116.

(5)は Sauerbeck-Statist 卸売物価指数により作成. *Abstract of British Historical Statistics*, p. 474.

1-3-3 財政構造の拡張的な性格

需要の構成変化

| | 個人消費 支出 | 政府経常 支出 | 粗固定資本形成 | | | 輸出・海外 からの所 得 | 輸入・海外 への所得 | 国民総支 出 |
|-------|------------|------------|---------|--------|-------|--------------------|---------------|-----------|
| | | | 小計 | 民間 | 政府 | | | |
| 1915 | 3,616 | 366 | 793 | 540 | 254 | 1,004 | 788 | 7,361 |
| 1920 | 11,326 | 1,085 | 3,596 | 2,566 | 1,035 | 2,984 | 3,095 | 25,687 |
| 1925 | 12,740 | 1,073 | 2,704 | 1,592 | 1,119 | 3,272 | 3,524 | 26,024 |
| 1930 | 10,850 | 1,452 | 2,322 | 1,329 | 1,010 | 2,486 | 2,439 | 21,888 |
| 1935 | 12,668 | 2,117 | 3,346 | 2,006 | 1,354 | 4,158 | 3,991 | 29,640 |
| 構成比 | | | | | | | | |
| 1915 | 49.1 | 5.0 | 10.8 | 7.3 | 3.5 | 13.6 | 10.7 | 100.0 |
| 1920 | 44.1 | 4.2 | 14.0 | 10.0 | 4.0 | 11.6 | 12.0 | 100.0 |
| 1925 | 49.0 | 4.1 | 10.4 | 6.1 | 4.3 | 12.6 | 13.5 | 100.0 |
| 1930 | 49.6 | 6.6 | 10.6 | 6.1 | 4.6 | 11.4 | 11.1 | 100.0 |
| 1935 | 42.7 | 7.1 | 11.3 | 6.8 | 4.6 | 14.0 | 13.5 | 100.0 |
| 増減 | | | | | | | | |
| 15-20 | 7,710 | 719 | 2,803 | 2,026 | 781 | 1,980 | 2,307 | 18,326 |
| 20-25 | 1,414 | -12 | -892 | -974 | 84 | 288 | 429 | 337 |
| 25-30 | -1,890 | 379 | -382 | -263 | -109 | -786 | -1,085 | -4,136 |
| 30-35 | 1,818 | 665 | 1,024 | 677 | 344 | 1,672 | 1,552 | 7,752 |
| 寄与率 | | | | | | | | |
| 15-20 | 42.1 | 3.9 | 15.3 | 11.1 | 4.3 | 10.8 | 12.6 | 100.0 |
| 20-25 | 419.6 | -3.6 | -264.7 | -289.0 | 24.9 | 85.5 | 127.3 | 100.0 |
| 25-30 | 45.7 | -9.2 | 9.2 | 6.4 | 2.6 | 19.0 | 26.2 | 100.0 |
| 30-35 | 23.5 | 8.6 | 13.2 | 8.7 | 4.4 | 21.6 | 20.0 | 100.0 |

需要構成の特徴

現代日本経済史2004

①民間設備投資の低迷

②輸出依存度の低下

に対して、

③個人消費の拡大と

④政府支出の増加が
景気を下支えする。

構成比

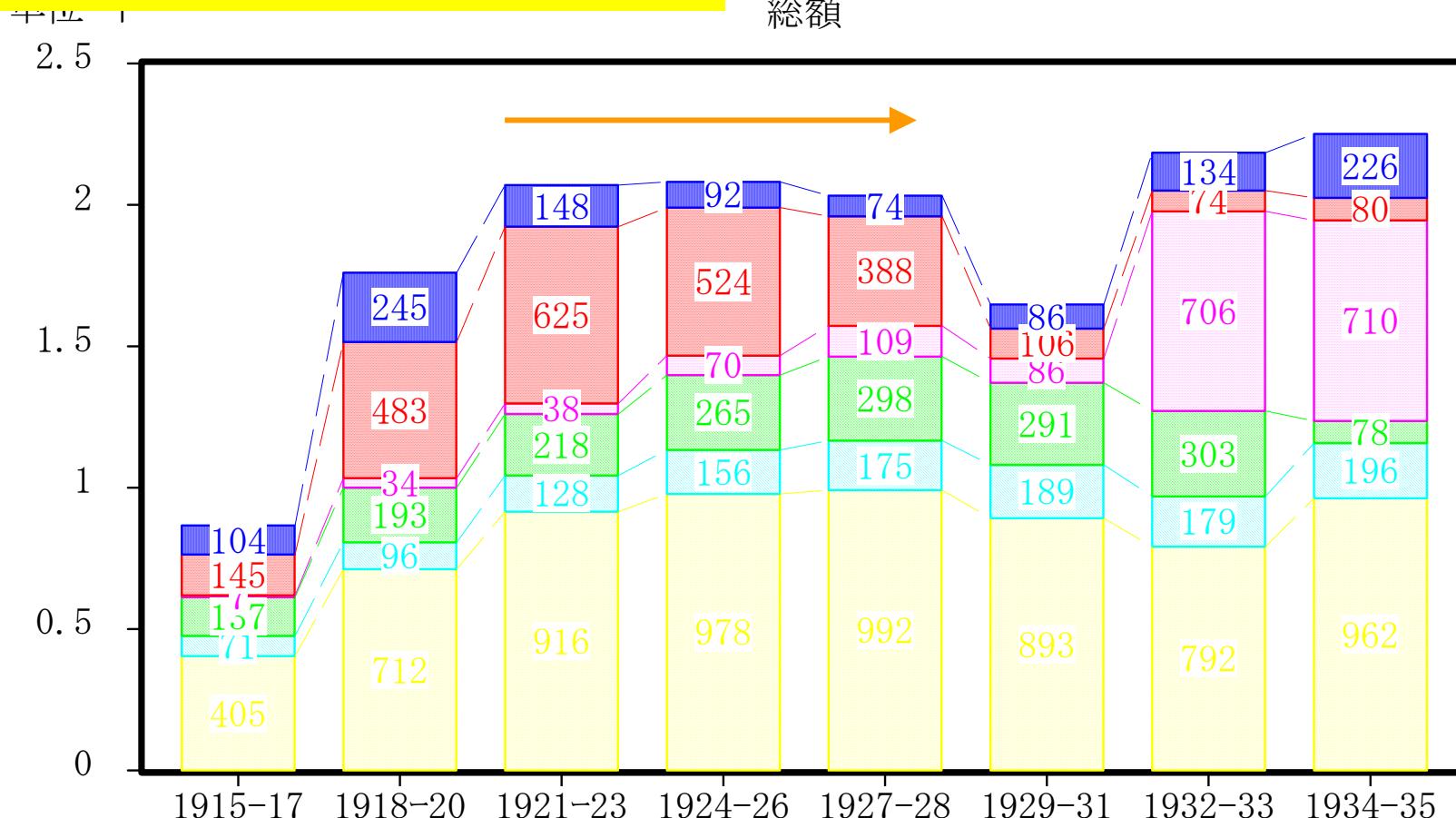
増減

| | 個人消費 支出 | 政府経常 支出 | 粗固定資本形成 | | | 輸出・海外 からの所 得 | 輸入・海外 への所得 | 国民総支 出 |
|-------|------------|------------|---------|--------|-------|--------------------|---------------|-----------|
| | | | 小計 | 民間 | 政府 | | | |
| 1935 | 3,346 | 3,346 | 540 | 254 | 2,566 | 1,004 | 788 | 7,361 |
| 1935 | 3,346 | 3,346 | 2,566 | 1,035 | 1,592 | 2,984 | 3,095 | 25,687 |
| 1935 | 3,346 | 3,346 | 1,329 | 1,119 | 1,010 | 3,272 | 3,524 | 26,024 |
| 1935 | 3,346 | 3,346 | 2,006 | 1,354 | 4,158 | 2,486 | 2,439 | 21,888 |
| 1935 | 3,346 | 3,346 | 2,006 | 1,354 | 3,991 | 4,158 | 3,991 | 29,640 |
| 構成比 | | | | | | | | |
| 1935 | 42.7 | 7.1 | 7.3 | 3.5 | 10.0 | 13.6 | 10.7 | 100.0 |
| 1935 | 42.7 | 7.1 | 10.0 | 4.0 | 6.1 | 11.6 | 12.0 | 100.0 |
| 1935 | 42.7 | 7.1 | 6.1 | 4.3 | 6.1 | 12.6 | 13.5 | 100.0 |
| 1935 | 42.7 | 7.1 | 6.1 | 4.6 | 6.8 | 11.4 | 11.1 | 100.0 |
| 1935 | 42.7 | 7.1 | 6.8 | 4.6 | 6.8 | 14.0 | 13.5 | 100.0 |
| 増減 | | | | | | | | |
| 15-20 | 7,710 | 719 | 2,803 | 2,026 | 781 | 1,980 | 2,307 | 18,326 |
| 20-25 | 1,414 | -12 | -892 | -974 | 84 | 288 | 429 | 337 |
| 25-30 | -1,890 | 379 | -382 | -263 | -109 | -786 | -1,085 | -4,136 |
| 30-35 | 1,818 | 665 | 1,024 | 677 | 344 | 1,672 | 1,552 | 7,752 |
| 寄与率 | | | | | | | | |
| 15-20 | 42.1 | 3.9 | 15.3 | 11.1 | 4.3 | 10.8 | 12.6 | 100.0 |
| 20-25 | 419.6 | -3.6 | -264.7 | -289.0 | 24.9 | 85.5 | 127.3 | 100.0 |
| 25-30 | 45.7 | -9.2 | 9.2 | 6.4 | 2.6 | 19.0 | 26.2 | 100.0 |
| 30-35 | 23.5 | 8.6 | 13.2 | 8.7 | 4.4 | 21.6 | 20.0 | 100.0 |

一般会計歳入の推移

現代日本経済史2004

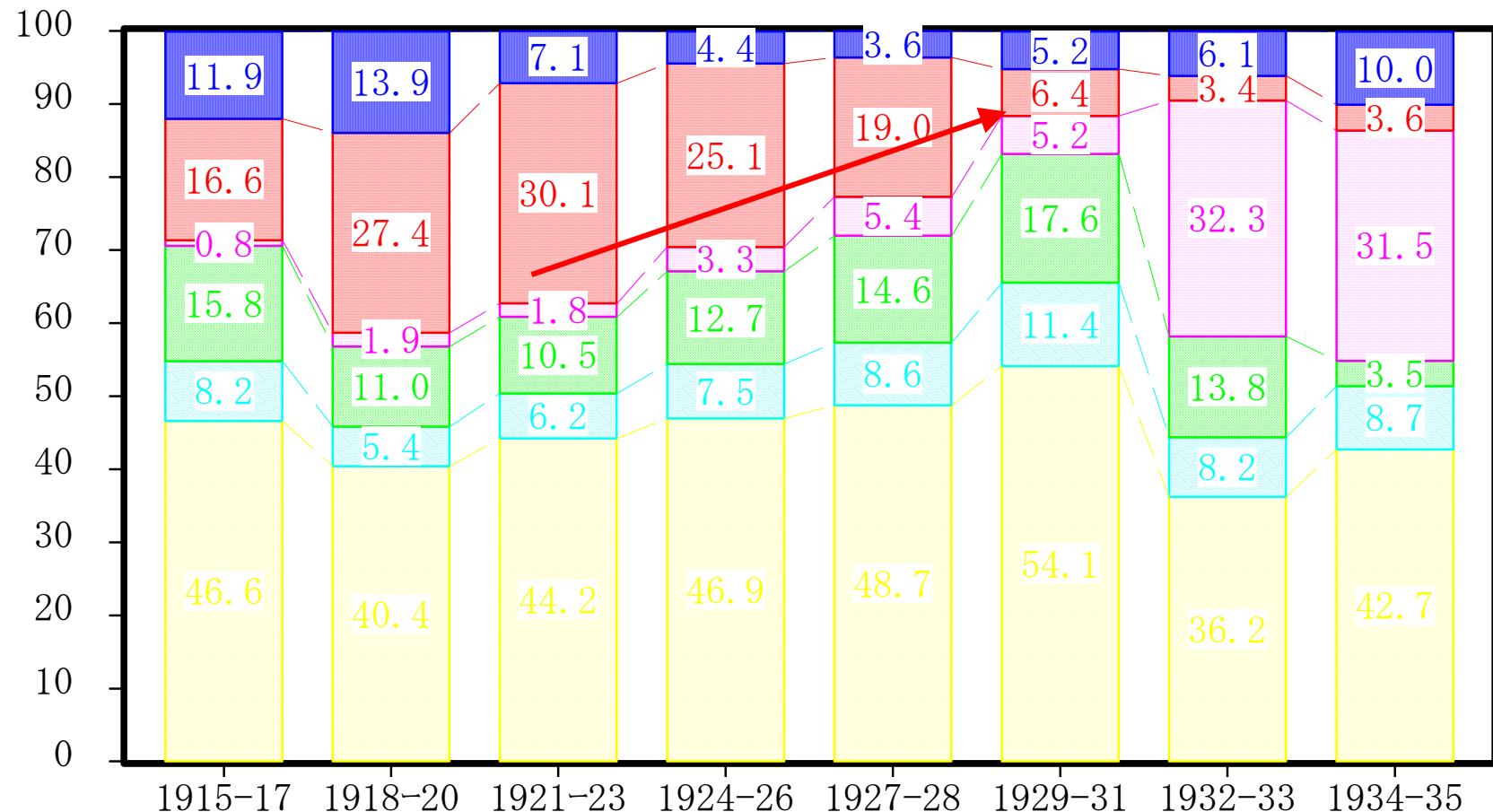
会計歳入内訳
総額



□ 租税等 □ 専売益金 □ 官業収入 □ 公債収入 □ 前年度繰越金

歳入構成比

一般会計歳入内訳 構成比

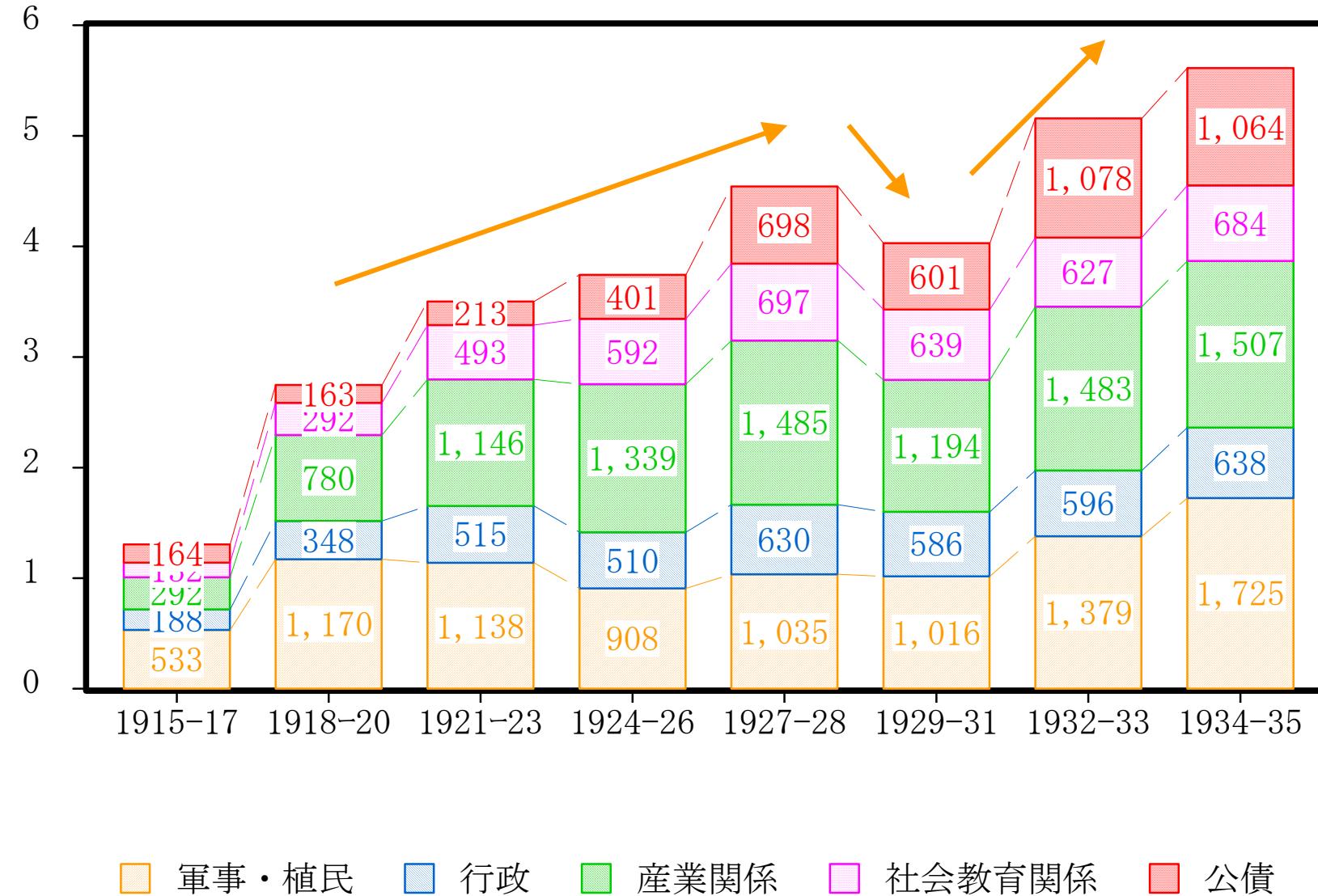


□ 租税等 □ 専売益金 □ 官業収入 □ 公債収入 □ 前年度繰越金

歳出の増加

政策目的別平均財政支出

単位・千



財政構造の拡張的な性格

- ①歳入は、剩余金を繰り入れても停滞状態であったにもかかわらず、
- ②歳出は大戦期を上回る高い水準となり、なお、増大傾向にあった。

その結果、大戦期に蓄積された巨額の財政剩余金が食いつぶされる。

いいかえると、20年代には財政剩余金が拡張的な政策を可能にする条件であった。

金融政策は、20年恐慌、関東大震災とつづく激動の中で企業への救済融資がつづき、通貨供給は収縮しなかつた。→物価の割高

しかし、政府支出の増加は、景気の下支えし、都市化を可能にする条件となる。

軍縮の時代

戦前の日本の中で1920年代は例外的な軍事費比率の低い時代
→都市化に対応した社会資本投資拡大の余地



景気の動向

全般的な投資の低迷(事業計画の少なさ)により、株価は低迷し、低落傾向。
金利は、1927年まで高金利状態を脱していない。
→「不況感」の強い時代

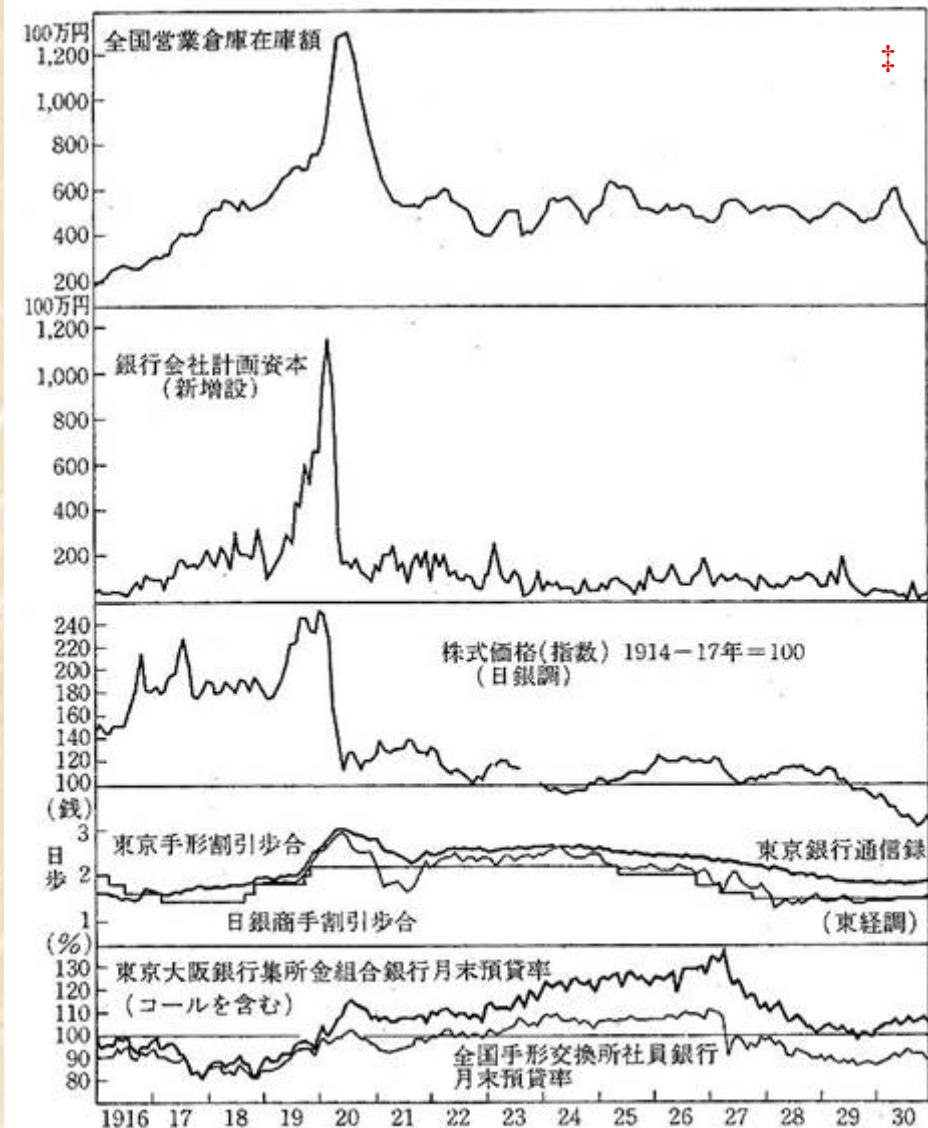


図 9-2 景気指標の推移

武田晴人「恐慌」、1920年代研究会編「一九二〇年代の日本資本主義」

出典：前掲「日本の景気変動」より作成。

企業の新設・ 増資と解散・ 減資

5.35 会社銀行の新設・増資と解散・減資

（単位：百万円）

| 年中 | 新 設 | 増 資 | 合 計 | 解 散 | 減 資 | 合 計 |
|------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|
| 1914 | 132 | 131 | 263 | 76 | 25 | 101 |
| 16 | 200 | 239 | 438 | 67 | 22 | 89 |
| 18 | 1,655 | 953 | 2,607 | 93 | 9 | 101 |
| 19 | 1,709 | 663 | 2,372 | 143 | 19 | 162 |
| 20 | 3,577 | 1,411 | 4,988 | 194 | 13 | 207 |
| 21 | 1,095 | 765 | 1,860 | 571 | 233 | 804 |
| 22 | 975 | 593 | 1,568 | 629 | 199 | 828 |
| 23 | 672 | 551 | 1,223 | 600 | 151 | 751 |
| 24 | 557 | 460 | 1,017 | 502 | 306 | 808 |
| 25 | 750 | 427 | 1,177 | 475 | 200 | 676 |
| 26 | 678 | 770 | 1,448 | 566 | 207 | 773 |
| 27 | 773 | 532 | 1,305 | 578 | 176 | 754 |
| 28 | 749 | 539 | 1,287 | 668 | 222 | 891 |
| 29 | 702 | 450 | 1,152 | 426 | 170 | 597 |
| 30 | 436 | 295 | 731 | 508 | 427 | 935 |
| 31 | 407 | 389 | 796 | 536 | 300 | 836 |
| 32 | 354 | 186 | 540 | 292 | 259 | 550 |

『金融事項参考書』昭和12年調、p. 58-9 より。公称資本に関する数値

1-3-4 産業・貿易構造の変化－不均衡な成長－

産業構成の変化－工場統計による主要製品別生産額－ 100万円

| 1914 | | 1919 | | 1929 | |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| 綿糸 | 204 | 生糸 | 780 | 生糸 | 795 |
| 生糸 | 158 | 綿糸 | 763 | 鉄道 | 750 |
| 鉄道 | 152 | 小幅織物 | 453 | 綿糸 | 678 |
| 軍工廠 | 149 | 石炭 | 442 | 電力 | 658 |
| 小幅織物 | 92 | 鉄道 | 401 | 広幅織物 | 526 |
| 石炭 | 80 | 小幅絹織物 | 397 | 清酒 | 301 |
| 清酒 | 70 | 海運 | 378 | 石炭 | 245 |
| 非鉄金属 | 60 | 軍工廠 | 315 | 軍工廠 | 208 |
| 電力 | 57 | 船舶 | 312 | 製紙 | 190 |
| 小幅絹織物 | 52 | 広幅織物 | 312 | 官営製鉄 | 190 |
| 製糖 | 49 | 官営製鉄 | 246 | 印刷 | 186 |
| 官営製鉄 | 46 | 清酒 | 240 | 毛織物 | 176 |
| 原動機 | 29 | 電力 | 183 | 鋼 | 173 |
| 製紙 | 29 | 製紙 | 151 | 製糖 | 158 |
| 毛織物 | 28 | 毛織物 | 122 | 小麦粉 | 146 |
| 印刷 | 26 | 肥料 | 111 | 肥料 | 132 |
| 小麦粉 | 25 | 鋼 | 107 | 広幅絹織物 | 130 |
| 肥料 | 25 | 製糖 | 104 | 工業薬品 | 115 |
| 銑鉄 | 23 | 撚糸 | 101 | 製材 | 112 |
| 広幅織物 | 20 | 非鉄金属 | 100 | 非鉄金属 | 108 |

山崎広明他
『講座帝国主義の研究6』より作成

表5 産業別大企業総資産推移

(単位:100万円)

| | 総資産額 | | | | | 増加額(寄与率) | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|----------|----------|----------|-------|-------|
| | 1911年末 | 1914年末 | 1919年末 | 1929年末 | | 1911~14年 | 1914~19年 | 1919~29年 | | |
| 鉱業 | 59 | 5 | 103 | 6 | 353 | 8 | 519 | 5 | 44 | 9.9 |
| 金属 | 6 | 0 | 12 | 1 | 27 | 1 | 95 | 1 | 6 | 1.3 |
| 鉄鋼 | 27 | 2 | 35 | 2 | 227 | 5 | 276 | 3 | 8 | 1.8 |
| 輸送機器 | 35 | 3 | 61 | 4 | 433 | 10 | 538 | 5 | 26 | 5.8 |
| 電機・一般機械 | 6 | 0 | 9 | 0 | 78 | 2 | 188 | 2 | 3 | 0.7 |
| 化学会社 | 25 | 2 | 34 | 2 | 121 | 3 | 379 | 4 | 9 | 2.0 |
| 窯業 | 9 | 1 | 18 | 1 | 48 | 1 | 185 | 2 | 9 | 2.0 |
| 紙業 | 29 | 2 | 35 | 2 | 141 | 4 | 482 | 5 | 6 | 1.3 |
| 織維 | 180 | 15 | 233 | 15 | 610 | 14 | 1,158 | 11 | 53 | 11.9 |
| 鐵道 | 351 | 30 | 388 | 24 | 548 | 13 | 1,858 | 17 | 37 | 8.3 |
| 海運 | 116 | 10 | 138 | 8 | 602 | 15 | 525 | 5 | 22 | 4.9 |
| 電気 | 102 | 9 | 240 | 15 | 438 | 11 | 2,995 | 29 | 138 | 30.9 |
| その他とも合計 | 1,154 | 100 | 1,600 | 100 | 4,150 | 100 | 10,373 | 100 | 446 | 100.0 |
| | | | | | | | | | 2,550 | 100.0 |
| | | | | | | | | | | 6,224 |
| | | | | | | | | | | 100.0 |

〔出典〕 中村青志『わが國大企業の形成・発展過程』1976年、産業政策研究所、74-77ページ。

鉄道と電力の発展が成長の原動力となる

(単位:100万円)

| | 増加額(寄与率) | | | | | |
|---------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| | 1911~14年 | | 1914~19年 | | 1919~29年 | |
| 鉱業 | 44 | 9.9 | 250 | 9.8 | 166 | 2.7 |
| 金属 | 6 | 1.3 | 15 | 0.6 | 68 | 1.0 |
| 鐵鋼 | 8 | 1.8 | ⇒ 192 | 7.5 | 49 | 0.8 |
| 輸送機器 | 26 | 5.8 | ⇒ 372 | 14.6 | 105 | 1.7 |
| 電機・一般機械 | 3 | 0.7 | 69 | 2.7 | 110 | 1.8 |
| 化學 | 9 | 2.0 | 87 | 3.4 | 258 | 4.1 |
| 窯業 | 9 | 2.0 | 30 | 1.2 | 137 | 2.2 |
| 紙パルプ | 6 | 1.3 | 106 | 4.2 | 340 | 5.5 |
| 織鐵道 | 53 | 11.9 | 377 | 14.8 | 548 | 8.8 |
| 海運 | 37 | 8.3 | 160 | 6.3 | 1,309 | 21.0 |
| 電気 | 22 | 4.9 | 464 | 18.2 | 76 | 1.2 |
| その他とも合計 | 138 | 30.9 | ⇒ 198 | 7.8 | 2,258 | 41.1 |
| | 446 | 100.0 | 2,550 | 100.0 | 6,224 | 100.0 |

1-3-5

外資輸入による正貨補充

貿易の入超による正貨流失
→金融引き締め圧力

これを回避するための外資輸入と正貨補充

5・39 外資輸入現在高 (単位: 百万円)

| 年末 | 総額 | 国債海外募集分 | 海外流出内債 | 地方債海外募集分 | 社債海外募集分 |
|------|-------|---------|--------|----------|---------|
| 1918 | 1,704 | 1,311 | 32 | 169 | 166 |
| 20 | 1,681 | 1,428 | 34 | 140 | 48 |
| 22 | 1,550 | 1,359 | 76 | 134 | 26 |
| 23 | 1,613 | 1,321 | 7 | 130 | 133 |
| 24 | 1,883 | 1,514 | 26 | 127 | 193 |
| 25 | 1,987 | 1,500 | 9 | 125 | 332 |
| 26 | 2,148 | 1,478 | 10 | 220 | 348 |
| 27 | 2,146 | 1,460 | 15 | 258 | 316 |
| 28 | 2,307 | 1,453 | 31 | 254 | 470 |
| 29 | 2,158 | 1,447 | 31 | 246 | 466 |
| 30 | 2,268 | 1,567 | 84 | 245 | 456 |
| 31 | 2,224 | 1,477 | 59 | 241 | 506 |
| 32 | 2,102 | 1,398 | 51 | 236 | 468 |
| 34 | 1,991 | 1,408 | 49 | 226 | 356 |
| 36 | 1,858 | 1,323 | 25 | 211 | 324 |

1928年以前の総額には、外人の内地銀行会社放資が含まれている。

日本銀行統計局『明治以降本邦主要経済統計』p.317 より Haruhito Takeda

輸入外資一覧

政府の財政負担をさけるため、

- ①地方債発行
 - ②電力外債
- による外資導入

成長を引っ張る地方公共投資と
電力業は、国際収支面
でも
デフレ圧力を緩和し、成長に貢献

5.38 大正・昭和初期の主要外債一覧

| 種 別 | 発行年月 | 発行額 | 利 率 | 発 行 地 |
|-----------|---------|--------|-------|--------|
| 国債 | 1924. 2 | 30,090 | 6.5 | ニューヨーク |
| 6分半利付米貨公債 | 〃 | 24,408 | 6.0 | ロンドン |
| 6分利付英貨公債 | 30. 5 | 12,204 | 5.5 | 〃 |
| 5分半利付英貨公債 | 〃 | 14,243 | 5.5 | ニューヨーク |
| 地方債 | 東京市債 | 26.10 | 5,858 | ロンドン |
| 東京市債 | 27. 4 | 4,140 | 5.5 | ニューヨーク |
| 横浜市債 | 26.12 | 3,960 | 6.0 | 〃 |
| 東京電燈債 | 23. 6 | 2,929 | 6.0 | ロンドン |
| | 25. 3 | 586 | 6.0 | 〃 |
| | 8 | 4,814 | 6.0 | ニューヨーク |
| | 27.12 | 1,535 | 6.5 | 〃 |
| | 28. 6 | 14,042 | 6.0 | 〃 |
| | 6 | 4,393 | 6.0 | ロンドン |
| 大同電力債 | 24. 8 | 3,009 | 7.0 | ニューヨーク |
| | 25. 7 | 2,708 | 6.5 | 〃 |
| 東邦電力債 | 25. 3 | 3,009 | 7.0 | 〃 |
| | 6 | 293 | 5.0 | ロンドン |
| | 26. 7 | 2,006 | 6.0 | ニューヨーク |
| | 29. 7 | 2,297 | 6.0 | 〃 |
| 日本電力債 | 28. 1 | 1,805 | 6.5 | 〃 |
| | 31. 2 | 1,464 | 6.0 | ロンドン |
| 宇治川電気債 | 25. 4 | 2,808 | 7.0 | ニューヨーク |
| 台湾電力債 | 31. 7 | 4,574 | 5.5 | 〃 |
| 東洋拓殖債 | 13. 3 | 1,935 | 5.0 | パリ |
| | 23. 3 | 3,992 | 6.0 | ニューヨーク |
| | 28.11 | 3,992 | 5.5 | 〃 |
| 南滿州鉄道債 | 23. 7 | 3,905 | 5.0 | ロンドン |
| 日本興業銀行債 | 24. 8 | 4,413 | 6.0 | ニューヨーク |

『金融事項参考書』昭和12年調、p.68-73より作成。いずれも発行地
ニューヨークはドル建、ロンドンはポンド建、パリはフラン建の外貨債

1-3-6 産業の組織化

現代日本経済史2004

- 激しい国際競争圧力の下で、日本の産業はこれに対抗するために、カルテルの結成などによる協調的な行動をとるようになる。
- 具体的には、石炭、銅、銑鉄、鋼材、セメント、綿糸、砂糖などでカルテル活動が展開する。

協調行動は、価格面では国際価格の強い下げ圧力の下で、関税障壁の有無に規定されながら、企業の利益率を高めるほどの効果を持たなかった。

しかし、市場機構への人為的な介入は、投機的な価格の変動を抑制することによって、企業に合理化の余地を与えた。

- 他方、産業の組織性の高さは、持株会社を中心とする財閥のコンツェルン的な発展にも結びついていく。企業間の関係が、競争と協調との両面を持ち、大企業が支配的な地位につく時代となつた。

カルテルの結成

● 主要産業のカルテル

- ・ 1880年 日本製紙連合会
- ・ 1889年 大日本紡績連合会
- ・ 1910年 糖業連合会
- ・ 1920年 羊毛工業会、石炭連合会、水曜会(銅)
過磷酸同業会、さらし粉連合会
- ・ 1923年 セメント連合会、硫酸販売組合
- ・ 1927年 絹紡工業会、日本人絹連合会、鉱石会
銑鉄共同組合
- ・ 1928年 砂糖配給組合
- ・ 1929年 鋼材連合会
- ・ 1930年 製粉販売組合、石灰窒素共販組合

1-3-7 1920年代の経済構造

①対外関係

欧米品の競争圧力



輸出の低迷・輸入拡大



貿易入超

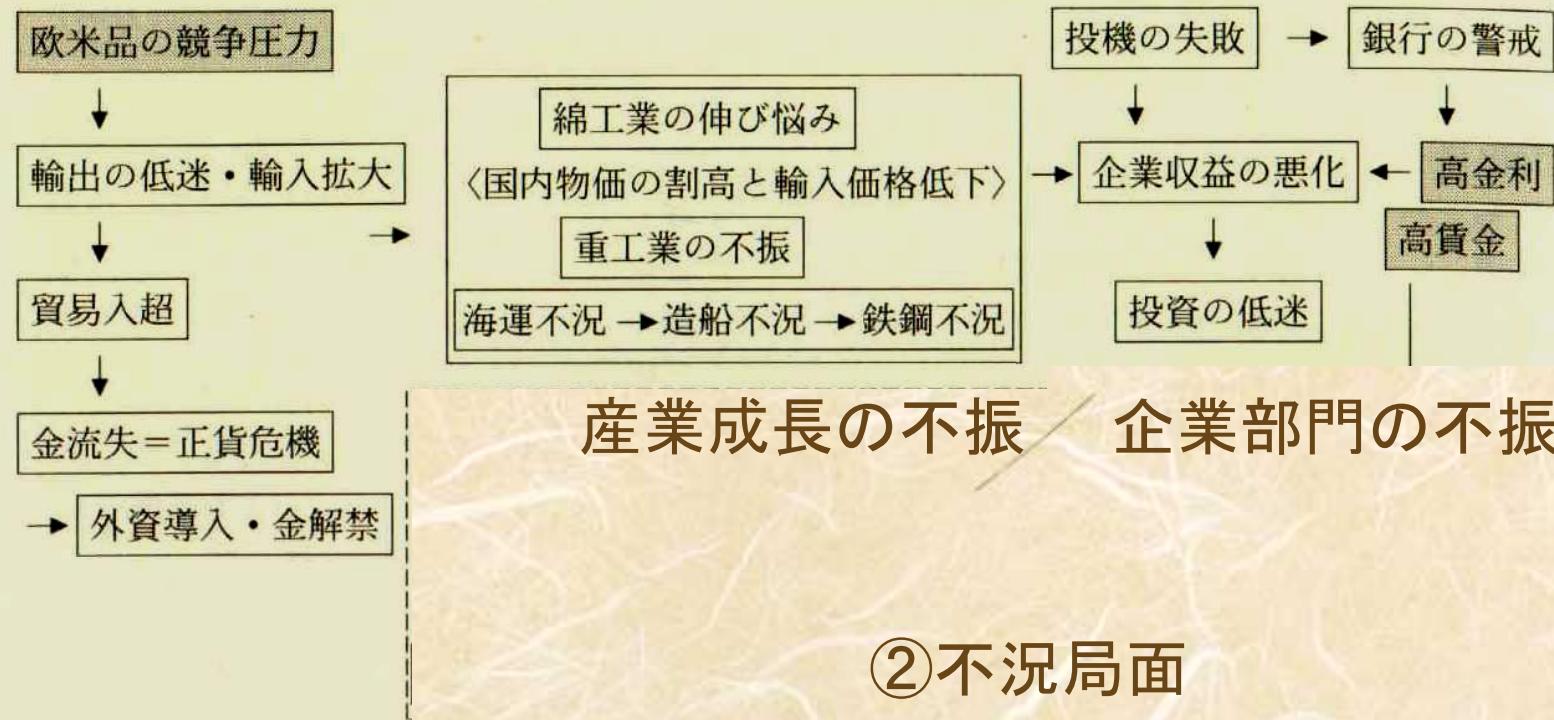


金流失=正貨危機

→ 外資導入・金解禁

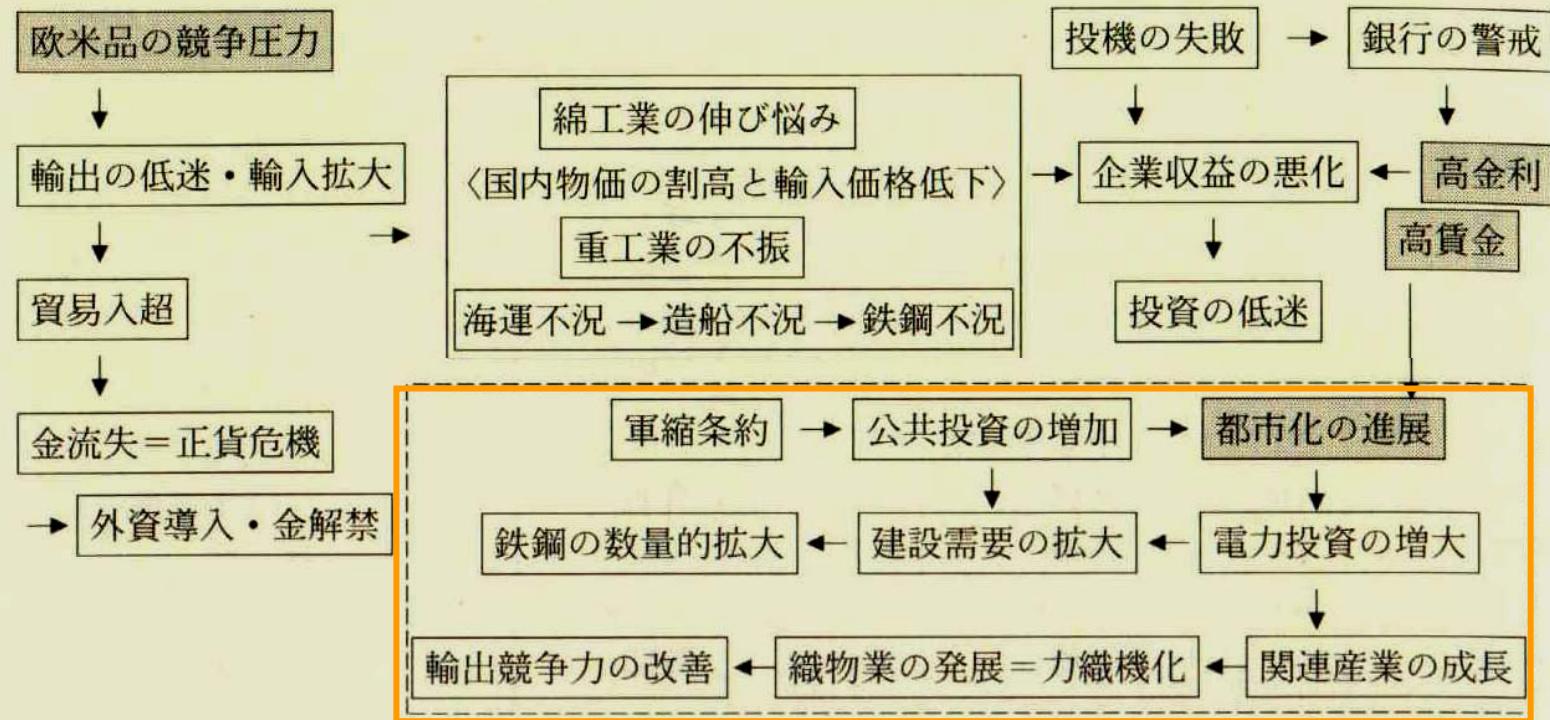
1920年代の経済構造

図 1-2 1920 年代の経済構造



1920年代の経済構造

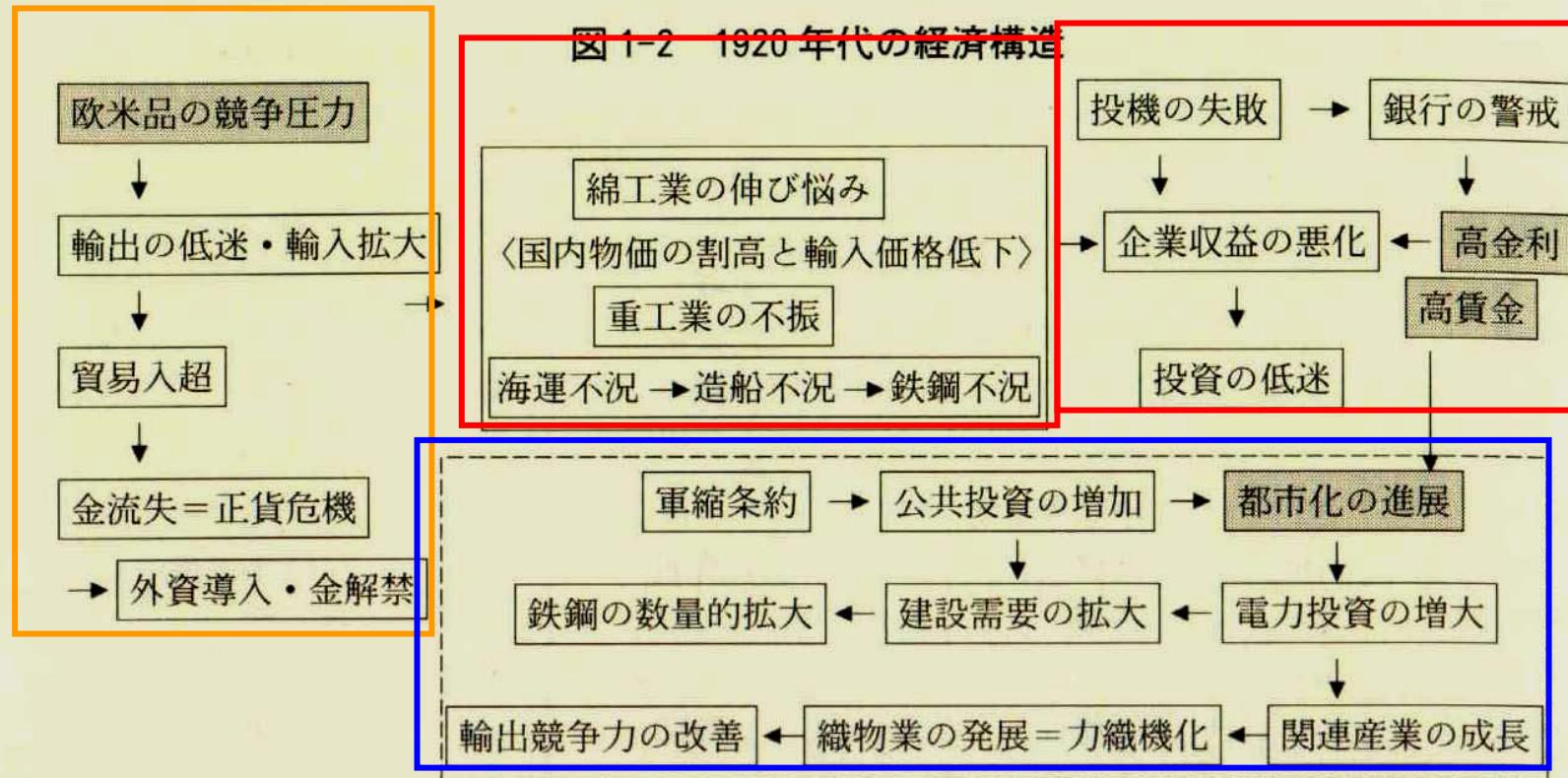
図 1-2 1920 年代の経済構造



③成長の局面

1920年代の経済構造

制約要因としての①対外競争圧力、②高金利、③高賃金
成長要因としての④都市化＝財政投資、軍縮



不均衡成長

- 大戦中に相対的低収益部門であった電力などでは、電力不足が顕在化し、これを解消するための積極的な電源開発や配電設備の増設が行われ、さらに、都市人口の増加に応じた都市の交通機関の整備や、道路・下水道等の整備など社会資本投資が活発化した。
- そのため、実質水準で見ると、このような投資拡大要因のためもあって、日本経済は高い実質成長を記録した
- が、その現実は、産業部門間の成長に著しい不均衡が発生した時代であったというべきものである。
- つまり、電力などの新しい成長部門の登場が見られたとはいえ、それは、日本経済全体を好況に転換するほどの起動力はなかったのである。